

## ～言葉の壁を越えて。～

七飯高等学校2年 福永美愛

人は人生に海外に行くことができる人はどれだけいるのでしょうか。多分、そんなに多くはいないと思います。何故なら、お金が多くかかるし他の国の言語を話せないといけないからです。理由は他にもあると思いますが、代表的な理由はこの二つだと思います。人生の中で一回は行って見たいという人は沢山いると思いますが、そうそう行けないのが海外というものだと思います。その、将来の夢の一つだと言っても過言ではない海外に今回私たちは数多くの希望者の中から選ばれ行く事ができました。

私はとても海外に行く事に憧れていました。英語は得意な方ではありませんが、海外のスタイルがとても好きで何より音楽がとても好きでした。見る映画も邦画ではなく洋画が好きで、きれいな景色や海外のスキンシップには心を打たれるばかりでした。いつか自分も海外に行って通用する様な人間になりたい、そう思っていました。

そして高2の夏。私は8人中3人という狭き門を突破し、海外に行ける事になりました。選ばれたとき本当に涙が出そうになるほど嬉しかったです。初めの事前研修会では、中々周りとは話すことができず個人の良さや性格が分からずこの調子で大丈夫かなと不安になったこともありました。でも、そんな心配は要りませんでした。Mr. ベンの英語講座はとても面白く、勉強になりました。レストランに行ったときの英語講座や道のたずね方、How to game、入国審査について等、沢山のことを学びました。事前研修会が終わった頃には周りとは会話もできるようになっていました。そうして10月1日、私たちは函館を旅立ちました。東京で一泊し、成田空港からボストンへ向かいます。私は人生初の国際線の飛行機に乗ることができました。約半日かかりながらも無事ボストンにつくことができました。入国審査では少しだけ日本語を話せる係の人がいたり海外旅行にとって居てくれると嬉しい係員もいて驚きました。入国審査のときにメンバーの一人が何か問題があったらしく奥に連れて行かれたときはすっごくひやひやしましたが、無事みんな合流し、コンコード町に行くことができ



ドキドキ、ワクワクの出発式で笑顔が硬い私

たので良かったです。スクールバスに乗ってコンコードに行くとき凄まじい速さには驚きました。最早バスではない、では何だと言われますと一番近いのがバイクです。窓が開いていたので、風が吹き荒れ、まるでバイクに乗っているような気分でした。私たち高校生と中学生はCCHSで降ろしてもらい、ホストファミリーと合流し行動することになりました。私のホストファミリーはボーイッシュな髪型で透き通るようなブルーグリーンの目をした年下の女の子でした。まつげも眉毛も薄い茶色で髪の毛はきれいな茶色でした。外国人は眼の色が同じなのに髪の毛の色が違ったりと本当に十人十色でした。そのボーイッシュな子の名前はルーシーと言いました。自己紹介するとルーシーは学校を軽く案内してくれました。音楽室に行く途中にホストマザーのアニーが迎えにきてくれました。アニーはとても明るく、よく笑い話しやすい人でした。車でアニーの家に帰るとき、アニーはアイスクリームを奢ってくれました。そこは駅と隣接しており裏口を開けると駅のホームが見ることができました。アイスを食べ終え、川で囲まれているコンコード町の色鮮やかな紅葉が映し出されている景色に心を奪われ写真を撮り、アニー宅に着くとホストファザーのシャノンが出迎えてくれました。背がとても高く微笑むと親戚のおじさんに似ていたのでリラックスして生活することができました。1日目はすぐに寝てしまいあまり交流を深めることができませんでした。また、時差ボケがあるのか3、4時に目が覚めてしまい、毎日とても早く寝てしまってとても申し訳なかったです。外国人の朝はとても早く6時半には家を出て学校に行きます。時と場合によりますが、最終日は6時前に家を出ました。とっても朝早かったです。

ルーシーは私より歳が下なのにすごい頭の良い子でコミュニケーション力がとても広くて驚きました。スペイン語、数学、英語、ジム（体育）など私より2つ歳が下とは思えない頭の良さでした。彼女はルービックキューブのアプリゲームなど私には出来ない事をさらっとやってのけるので私にとって姉みみたいな存在でした。私がつたえ英語に不自由でも彼女は携帯を使い、または日本語のキーボードを出して会話をしてくれようと積極的に関わろうとしてくれました。また、ルーシーの事を見てて思いましたが、外国人の人は物をたくさん食べるものだと思っていましたがとても小食で、食べるものもヘルシーなものばかりでした。レストランに行けば量も多く、脂っこいものを食べたりしますが家ではヘルシーなものばかりで驚きました。ルーシーは朝にジュース一杯、昼に少し食べ、夜も少し食べという感じで逆に私は朝、昼、夜、普通に食べるのでホストファミリーの人たちにはとても驚かれました。また、CCHSは先生が動かず生徒だけが動き、選択している教科を受けに行っていました。床もフローリングではなく、じゅうたん式で掃除は生

徒ではなく専門の人がしていました。金曜日にはフットボールの試合を見ることもできます。また、授業の間の休憩時間&移動時間はとても短く、急いで行動しなくてはいけないので大変でした。統一された服、いわば制服もなくいろんな外国人が通っていました。また、授業中に飲食をされており先生に何も告げずに教室を出て行ったりするので驚きましたが自由で日本にはない教育法なので憧れてしまいました。

たくさんの事を見て、感じて、経験してお別れをしました。私は今日本に帰ってきて思うのはあれは全部夢のような気がしています。でも、写真もあって今こうやってレポートを書いていることから自分は海外に行ったことは事実なのだと思います。私に関わった人たちや見た景色や感じたことは確かに存在していて今もなお自分と同じ時間を動いているんだなと思うと少し不思議な気持ちになります。この不思議な気持ちを無くす為にも自分の記憶が夢ではなかったと確かめる為にもまた海外にいけたらいいなと思います。次は英語も得意になって話せるようになった頃に、私のホストファミリーたちに会いに行きたいなと思います。今度は内容も理解しながら普通に輪に加わって話したいと思いました。やっぱり海外は私の理想を壊さず、冒険心を燃やすようなところでした。このような貴重な体験ができたこの研修会は後輩へ後輩へと受け継ぎ今の年齢だからこそ味わえないものをつかんできてほしいと思います。そして、海外にしかないあの柔軟なものの考え方を宗教がこの国に三種類あるように少しずつでも海外のいいところを取り入れていっていったらもっと日本は良い国になるんだろうなと思いました。以上でコンコード海外研修のレポートを終わります。

若草物語が書かれたオーチャードハウスの前で記念撮影

